

121 A 350.3

特 許 庁  
実 用 新 案 公 報実用新案出願公告  
昭41-17374  
公告 昭41.8.12  
(全2頁)

## フアスナー

実 願 昭 39-65613  
出 願 日 昭 39.8.19  
考 案 者 和泉慶男  
奈良県生駒郡生駒町元町128  
出 願 人 新日本スライドフアスナー工業株  
式会社  
大阪市南区上沙町1の31  
代 表 者 和泉国夫  
代 理 人 弁理士 鎌田嘉之

## 図面の簡単な説明

第1図は本考案フアスナーの要部を示す一部切欠平面図、第2図は同横断面図である。

## 考案の詳細な説明

本考案は全開式フアスナーに関するもので、左右のフアスナー片の端部材を合成樹脂製とすると共にテープの補強を行うようにしたものである。

即ち本考案は掛合子1……の多数を列設した布テープ2、2から成る左右のフアスナー片A、Bの端部に夫々掛脱自在に掛合してフアスナー片A、B端を連継させる端部材3、4を合成樹脂にて形成すると共に、この両端部材3、4から、テープ2、2の上下面を挟着する網状の補強材5、5を一体に連設し、且つ該補強材5、5はテープ2、2の端部において、この端部に添う合成樹脂材から成る縁材6、6によつて上下一体に連継させたもので、図中7は端部材3の端部に形成した肉厚部の側縁から、所要の深さに形成した内括掛合溝で、この溝8の内括部9に端部材4が着脱自在に掛合する。

又端部材4、3や、補強材5、5等の形成はテープ2、2を該端部材4、3や補強材5、5の形成用金型で挟んで、これらを形成すること同時にテープに対し、補強材5、5等が喰い込んで容易

に離れないようにする。

更に補強材5、5中の端部材3、4に近い部分イは肉厚の網状にし、他の部分ロは比較的細いもので構成し、且つテープ2の上下面のものが互に喰い違い状になるようにする。尚合成樹脂材は硬質、半硬質、軟質の何れでもよい。

本考案は上記の通りであり、この種の全開式フアスナーのフアスナー片A、Bの端部材3、4は開放時分離しており、結合時に適宜掛合させて、この掛合部からスライダーを走らせて両フアスナー片A、Bの掛合子1……1……を結合させるものである。

従つて端部材3、4の掛合はテープ2、2の端部を指で摘まんで行うのであるが、この部分が柔軟すぎると、端部材3、4がぐらついて掛合が非常にやり難くなるのである。

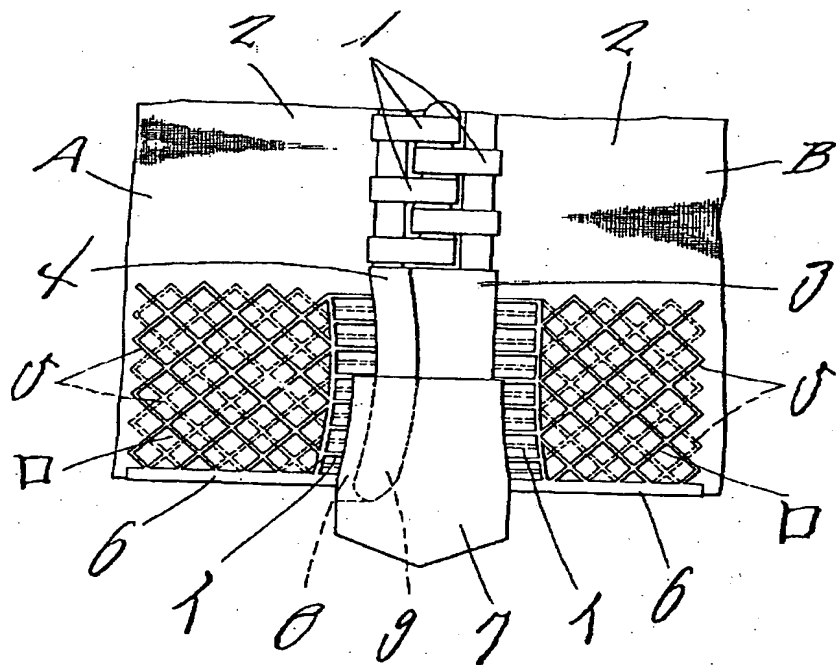
しかるに本考案は端部材3、4を取付けた部分のテープ2、2の上下を合成樹脂材から成る網状の補強材5、5で挟んだため、テープ2、2が補強されて腰が強くなり、この部分を摘まむと端部材3、4はぐらつくことなく操作できるのでその掛合が甚だ容易となるのである。

又端部材3、4と補強材5、5とは合成樹脂による一体成形であるので、金型でテープを挟なこによつて両者は一度に成形されるので製造が極めて能率的に行われるのである。

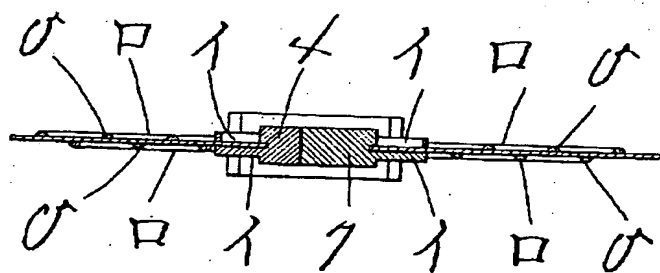
## 実用新案登録請求の範囲

掛合子1……の多数を列設した布テープ2、2から成る左右のフアスナー片A、Bの端部に夫々掛脱自在に掛合してフアスナー片A、B端を連継させる端部材3、4を合成樹脂にて形成すると共に、この両端部材3、4から、テープ2、2の下面を挟着する網状の補強材5、5を一体に連設し、且つ該補強材5、5はテープ2、2の端部において、この端部に添う合成樹脂材から成る縁材6、6によつて上下一体に連継させたフアスナー。

第1図



第2図



昭和39年実用新案登録願第65613号の明細書（実公昭41—17374号、昭41. 8. 12  
発行の実用新案公報7—1127号掲載）は異議申立による補正に基いてその公報を下記の通り訂正す  
る。  
—実用新案登録第897414号—121 A 350.3

記

1. 第1頁左段下から9行目「上下一体に連継」を「上下一体に連継し、上下補強材5, 5の網目を喰い違い状に齟齬」と補正する。
  2. 第1頁右段第4～5行「し、且つテープ2の……違い状になるように」を削除する。
  3. 第1頁右段第20行「腰が強くなり、」の次に「適度の可撓性を有し」を加入する。
  4. 第1頁右段第23～26行「又端部材……行われるのである。」を「又本案においては補強材5を網目状とした、め手掛りを良くし、縦横何れの方向に対しても滑りが少く、テープに適度の可撓性を保有させ端部材3, 4の掛合離脱を容易にする。更に補強材5を網状としたことによりテープとの結合を確実にし、之を上下両面に形成することによつて補強が過度となり確直する欠点を伴うが補強材5を網目状とし、この網目を上下齟齬させたので上記欠点を防止し、合成樹脂材による成形を容易にすることができる。更に上下両面の補強材5, 5を縁材6により一体に連継し、テープ端縁を包被するため端縁におけるテープと補強材の離脱並にテープのはつれを完全に防止し、且テープ端縁が露出しないので体裁良好な効果を有す。」と補正する。
  5. 第1頁右段下から2行目「上下一体に連継させ」の次に「上下補強片5, 5の網目を互に齟齬させ」を加入する。
-